

平成28年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

連携大学名	北海道大学	連携大学事業推進委員	井上 哲	事務担当者	藤野 智彦
-------	-------	------------	------	-------	-------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	横山 敦郎 山崎 裕 岡田 和隆 浅香 卓哉 吉川 和人 高橋 大郎 吉原 俊博 井上 哲	歯学部長 運営委員会委員長 運営委員会委員 運営委員会委員 運営委員会委員 運営委員会委員 運営委員会委員 運営委員会委員	事業責任者 研修実施責任者 研修実施担当 研修実施担当 研修実施担当 研修実施担当 研修実施担当 卒後臨床研修センター歯科部門長	☑・否
教育プログラム・コース名	北海道大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム がん治療の周術期における口腔管理研修コース			
事業計画	<p>研修概要</p> <p>さまざまながん患者における周術期の歯科的管理に習熟し、歯科診療所において地域病院との円滑な連携を研修直後から実践できる歯科医師を育てるために行うもので、がん治療の周術期セミナー、がん化学療法前の口腔管理演習、およびがん治療周術期の口腔管理研修からなる。</p> <p>対象</p> <p>単独型歯科研修医 8名</p> <p>研修目標</p> <p>(1) さまざまながん患者における周術期の歯科的管理に習熟する</p> <p>(2) 歯科診療所において地域病院との円滑な連携を研修直後から実践できる</p> <p>研修項目</p> <p>(1) がん治療の周術期管理に関するセミナー (90分×7回)</p> <p>① 平成28年5月30日(月) がん治療と口腔内合併症</p> <p>② 平成28年6月6日(月) がん患者の歯科治療と医療連携</p> <p>③ 平成28年6月13日(月) がん化学療法全般</p> <p>④ 平成28年6月20日(月) がん放射線療法全般</p> <p>⑤ 平成28年6月27日(月) 耳鼻咽喉科領域のがん治療</p> <p>⑥ 平成28年7月4日(月) 血液内科領域のがん治療</p> <p>⑦ 平成28年7月11日(月) 小児科領域のがん治療</p> <p>(2) がん化学療法前の口腔管理演習 (150分) 平成28年12月19日</p> <p>① 新患担当症例のプレゼンテーションと質疑応答 (1人15分)</p> <p>(3) がん治療周術期の口腔管理研修</p> <p>① がん化学療法前の口腔管理を目的とした新患の歯科治療 (2~3週間)</p> <p>② 耳鼻咽喉科、血液内科、小児科各病棟への周術期口腔管理の往診 (各科病棟2週ずつ計6週)</p> <p>研修評価</p> <p>(1) セミナー受講後にレポート提出</p> <p>(2) 新患担当症例のプレゼンテーション</p> <p>(3) 研修終了後に運営委員会メンバーによる口頭試問(平成29年2月24日)</p>			
成果	<ul style="list-style-type: none"> 今年の研修医に、当研修プログラムの希望を募ったところ、14人の応募があり、抽選で8人を決定した。 研修項目(1)のがん治療の周術期管理に関わるセミナーを予定通り7回終了したが、本年は昨年、収録したe-learning教材での聴講で施行した。研修医にセミナー終了後、レポートを提出させた。 研修項目(3)のがん治療周術期の口腔管理研修では、①がん周術期の新患の患者さんを昨年より1人多い3人以上担当し、指導医の指導の下で治療を行った。②耳鼻咽喉科、血液内科、小児 			

	<p>科への往診を8人の研修医全員が終えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修項目(2)のがん化学療法前の口腔管理演習では、12/19に担当した新患の患者さん1人を選択し、診断・治療の概要をパワーポイントにしてプレゼンテーション(10分)、質疑応答(5分)を行った。 ・研修プログラムを全て終了後の平成28年2月24日に、担当教官7名出席の下、口頭試問を行い、8人全員の合格を決定した。 ・口頭試問後に、研修医に対し研修のアンケート調査を行い、次年度の事業計画の参考にした。 ・平成28年9月26日昭和大学口腔ケアセンター長の弘中祥司教授を招聘し、「昭和大学での摂食嚥下チーム医療と口腔ケアセンターの取組み」と題する講演を企画し、研修医全員に聴講させた。 ・平成28年12月8日 岩手医科大学歯学部歯科保存学講座齶蝕治療学分野の野田 守教授を招聘し、「周術期口腔機能管理 循環器編」と題する講演を企画し、研修医全員に聴講させた。 ・北海道歯科医師会の協力で、がん医科歯科連携講習会を3/1, 3/13, 3/27, 3/29の計4回実施し、全て受講した者には修了証が授与されるが、可能な限り受講してもらう予定である。
<p>本プロジェクトに関連した業績, 知財, 受賞等</p>	<p>論文・研究発表 なし</p> <p>知財 なし</p> <p>受賞等 なし</p>
<p>事業費の使途</p>	<p>消耗品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅診療教育用シミュレーター MS-01 ・頬粘膜ボックスファントム用 ・G10-KG. P. 6-QF 印象採得実習用顎模型 ・D16-NI. P. 25 統合型実習模型 ・ICGY39A グレー 純正品 ・セミナーのテキスト印刷費 <p>旅費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携シンポジウム及び第4回事業推進委員会参加(九州大学) : 13人 <p>その他 なし</p>

平成28年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」事業

連携大学名	金沢大学	連携大学事業推進委員	中村博幸	事務担当者	山口美和
-------	------	------------	------	-------	------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	川尻秀一 中村博幸 長谷剛志 大井一浩	教授 准教授 医員 講師	事業推進委員 事業推進委員 教育カリキュラム開発・編成担当 実習コーディネーター	(可) 否
教育プログラム・コース名	金沢大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム (1) がん治療支援口腔機能管理社会人研修コース (2) がん治療支援口腔機能管理卒後臨床研修コース (3) がん治療支援口腔機能管理コース			
事業計画	平成28年度 歯学教育改革コンソーシアムの事業推進委員会を開催 各連携大学の特徴あるプログラムの登録、試行 九州大学歯学部で歯学教育研究連携シンポジウムの開催			
成果	<p>(1) 歯学教育改革コンソーシアムの事業推進委員会に参加</p> <p>(2) 当教室と金沢大学神経内科が主催する北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)が共同で市民公開講座“生活習慣と認知症との関連”を開催した。</p> <p>(3) 各連携大学の特徴あるプログラムの登録、試行 金沢大学がんプロフェッショナル医養成プラン(がんプロ)のコンテンツを本事業へと移行するための作業を継続している。具体的な作業内容は、コンテンツの著作権処理と作製者からの使用許諾の取得である。本年度は10コンテンツの移行が終了し本部に提出した。さらに、コンテンツ作製機を用いて8コンテンツを自作し本部に提出した。</p> <p>(4) 九州大学歯学部で歯学教育研究連携シンポジウムに参加</p> <p>(5) 在宅訪問口腔ケア研修 金沢森本⇄砺波(11/14、12/5、12/12)【各日1名ずつ計3人の研修医に対して実地研修を行った】</p>			

<p>本プロジェクトに関連した業績, 知財, 受賞等</p>	<p>論文・研究発表</p> <p>(1) Kobayashi K, Jokaji R, Miyazawa-Hira M, Takatsuka S, Tanaka A, <u>Ooi K</u>, <u>Nakamura H</u> and <u>Kawashiri S</u>. Elastin-derived peptides are involved in the processes of human temporomandibular disorder by inducing inflammatory responses in synovial cells. Molecular Medicine Reports, 2017, in press.</p> <p>(2) Hirai M., Kitahara H., Kobayashi Y., Kato K., Bou-Gharios G., <u>Nakamura H</u> and <u>Kawashiri S</u>. Regulation of PD-L1 expression in a high-grade invasive human oral squamous cell carcinoma microenvironment. Int J Oncol, 2017, 50: 41-48.</p> <p>(3) Poulet B, Liu K, Plumb D, Vo P, Shah M, Staines K, Sampson A, <u>Nakamura H</u>, Nagase H, Carriero A, Shefelbine S, Pitsillides A.A, and Bou-Gharios G, Overexpression of TIMP-3 in chondrocytes produces transient reduction in growth plate length but permanently reduces adult bone quality and quantity. PLOS ONE, 2016, 11(12):e0167971.</p> <p>(4) Kitahara H., Hirai M., Kato K., Bou-Gharios G., <u>Nakamura H</u> and <u>Kawashiri S</u>. Eribulin sensitizes oral squamous cell carcinoma cells to cetuximab via induction of the mesenchymal-to-epithelial transition. Oncology Reports, 2016, 36; 3139-3144.</p> <p>(5) Mori, T., Murasawa, Y., Ikai, R., Hayakawa, T., <u>Nakamura, H.</u>, Ogiso, N., Niida, S., and Watanabe, K. Generation of a transgenic mouse line for conditional expression of human IL-6. Exp Anim, 2016, 65:455-463.</p> <p>(6) Kitahara H., Hirai M., <u>Nakamura H.</u>, <u>Kawashiri S.</u> Eribulin differentiates cetuximab resistant oral squamous cell carcinoma cells to sensitive by inducing mesenchymal-epithelial transition (MET). Eur J Cancer 2016, 61: S54.</p> <p>(7) Hirai M., Kitahara H., <u>Nakamura H</u>, <u>Kawashiri S</u>. Loss of PD-L1 expression in oral squamous cell carcinoma is associated with invasiveness and epithelial-mesenchymal transition. Eur J Cancer 2016, 61: S55.</p> <p>(8) Kimura I, Kitahara H, <u>Ooi K</u>, Kato K, Noguchi N, Yoshizawa K, <u>Nakamura H</u>, <u>Kawashiri S</u>; Loss of epidermal growth factor receptor expression in oral squamous cell carcinoma is associated with invasiveness and epithelial-mesenchymal transition. Oncol Lett, 2016, 11: 201-207.</p> <p>知財 なし 受賞等 なし</p>
<p>事業費の使途</p>	<p>設備備品 コンテンツ作成マシン、細菌カウンタ</p> <p>消耗品 JMS舌圧測定器、JMS舌圧プローブ、口唇閉鎖力測定器 等</p> <p>旅費 九州大学歯学部での歯学教育研究連携シンポジウム 参加 他、説明会参加、学会参加 等</p> <p>その他 教材移行作業、企画設計（定期的な打合せ含む）、対象科目の著作権確認・著作権処理・各講師への承諾 学会参加費</p>

平成28年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

連携大学名	大阪大学	連携大学事業推進委員	天野 敦雄	事務担当者	若林 真弓
-------	------	------------	-------	-------	-------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	天野 敦雄 竹重 文雄 池邊 一典 権藤 恭之 神出 計 北村 正博 松田 謙一 小川 泰治	歯学部長 教授 准教授 准教授 教授 准教授 助教 助教	事業責任者 教育カリキュラム開発・編成担当 実習コーディネーター 実習担当 (老年心理学) 実習担当 (老年内科学) 実習担当 (歯周病学) 実習担当 (歯科補綴学) 実習担当 (高齢者歯科学)	☑・否
教育プログラム・コース名	大阪大学先導的「口腔から全身への健康学」教育の高度化プログラム 異分野連携に資する歯科医学研究者養成実習 多職種連携に資するリサーチマインドを持った指導的歯科医療人養成コース 高齢者の総合診療に資する歯科医療人の育成実習			
事業計画	<p>大阪大学では、老年学研究会が中心となり、都市部と農村部において、70歳、80歳、90歳の方を計1200名登録し、健康長寿についてのコホート研究を行っている。歯学のみならず、医学系（老年内科学、看護学）、人間科学（社会学、心理学、運動学）の各研究科、地域の行政（保健師など）が参加している。</p> <p>大学院生や臨床研修医は、この共同研究に参加し、それぞれの分野の観点を学び、口腔機能のみならず、栄養摂取、内科的疾患、認知機能、運動機能の評価方法を実習する。</p> <p>また、学部生教育として、臨床実習生を対象に高齢者マネキンを用いた要介護高齢者歯科治療模擬体験実習を実施する。</p> <p>高齢者を対象とした総合診療と研究に必要な医療人や研究者との交流を図り、異分野連携に貢献する資質を涵養することを期待できる新規性及び独創性の高いプログラムである。</p>			
成果	<p>異分野連携に資する歯科医学研究者養成実習では、2名の大学院生が、1回6時間の実習を、延べ18回履修した。</p> <p>また、指導的歯科医療人養成コースでは、6名の臨床研修医が、1回6時間の実習を、延べ6回履修した。</p> <p>大学院生、研修医とも、高齢者の健康に重要な、栄養摂取、内科的疾患、認知機能、運動機能の評価方法を理解し、修得するとともに、収集したデータの入力、整理を行った。大学院生は、それに加えて統計解析も行った。</p> <p>6名の臨床研修医は、長野県の農村部において、各5日間、訪問歯科診療に同行し、診療を見学するとともに、上記のうち可能なものについてデータの収集を行った。</p> <p>要介護高齢者歯科治療模擬体験実習は6名の臨床実習生が希望受講し、要介護者高齢者マネキンを用いて歯科治療（口腔内検査、印象採得）を模擬的に実践し、診療時の要点などの解説およびフィードバックを行った。今後はさらに実習内容の充実を図ると同時に、受講対象者の拡大に努めたいと考えている。</p>			

本プロジェクトに関連した業績, 知財, 受賞等

論文

1. Yoshinaka M, Ikebe K, Uota M, Ogawa T, Okada T, Inomata C, Takeshita H, Mihara Y, Gondo Y, Masui Y, Kamide K, Arai Y, Takahashi R, Maeda Y. Age and sex differences in the taste sensitivity of young adult, young-old and old-old Japanese. *Geriatrics and Gerontology International*. 2016; 16; 1281-1288.
2. Takeshita H, Ikebe K, Gondo Y, Inagaki H, Masui Y, Inomata C, Mihara Y, Uota M, Matsuda K, Kamide K, Takahashi R, Arai Y, Maeda Y. Association of occlusal force with cognition in independent older Japanese people. *JDR Clinical & Translational Research*. 2016; 1; 69-76.
3. Uota M, Ogawa T, Ikebe K, Arai Y, Kamide K, Gondo Y, Masui Y, Ishizaki T, Inomata C, Takeshita H, Mihara Y, Maeda Y. Factors related to taste sensitivity in elderly: cross-sectional findings from SONIC study. *Journal of Oral Rehabilitation*. 2016; 43; 943-952.
4. Ogawa T, Uota M, Ikebe K, Arai Y, Kamide K, Gondo Y, Masui Y, Ishizaki T, Inomata C, Takeshita H, Mihara Y, Hatta K, Maeda Y. Longitudinal study of factors affecting taste sense decline in old-old individuals. *Journal of Oral Rehabilitation*. 2017; 44: 22-29.

研究発表

1. Inomata C, Ikebe K, Takeshita H, Mihara Y, Hatta K, Tada S, Matsuda K, Ogawa T, Maeda Y. The associations between masticatory performance and dietary intakes in independently living 73-year-old Japanese. European College of Prosthodontics Annual Congress. 4 Jun, 2016. Paris, France.
2. 福武元良, 八田昂大, 三原佑介, 池邊一典, 前田芳信. 臼歯部咬合支持が歩行速度に及ぼす影響について -SONIC 研究の縦断的分析より-. 日本スポーツ歯科医学会. 2016年6月12日. 愛知.
3. 八田昂大, 三原佑介, 池邊一典, 猪俣千里, 武下肇, 小川泰治, 松田謙一, 前田芳信. 臼歯部咬合支持が認知機能低下に及ぼす影響についての検討—SONIC Study 3年間の縦断研究より—. 老年歯科医学会. 2016年6月18日. 徳島.
4. Uota M, Ogawa T, Ikebe K, Kamide K, Arai Y, Gondo Y, Masui Y, Mihara Y, Ishizaki T, Maeda Y. Factors related to taste sensitivity in elderly: from SONIC Study. International Federation of Aging. 21 Jun, 2016. Brisbane, Australia.
5. Hatta K, Mihara Y, Ikebe K, Inomata C, Takeshita H, Ogawa T, Matsuda K, Gondo Y, Kamide K, Masui Y, Inagaki H, Ishizaki T, Arai Y, Maeda Y. Influence of occlusal support on cognitive decline: A longitudinal study. International Association for Dental Research. 24 Jun, 2016. Seoul, Korea.
6. Ikebe K. Association of occlusal condition with cognition in older people. International Association for Dental Research. 24 Jun, 2016. Seoul, Korea.
7. Inomata C, Ikebe K, Takeshita H, Mihara Y, Hatta K, Fukutake M, Matsuda K, Ogawa T, Okubo H, Gondo Y, Kamide K, Masui Y, Ishizaki T, Arai Y, Maeda Y. Importance of occlusal force for dietary intakes in 80-year-old Japanese. International Association for Dental Research. 25 Jun, 2016. Seoul, Korea.
8. 三原佑介, 松田謙一, 池邊一典, 八田昂大, 猪俣千里, 武下肇, 榎木香織, 小川泰治, 前田芳信. 高齢者における筋力と口腔機能との関連. 日本補綴歯科学会. 2016年7月10日. 金沢.
9. 池邊一典. 高齢者の口腔と全身の健康との関係. Handai-Asahi 中之島塾. 2016年8月20日. 大阪.
10. 池邊一典. 歯が良い人はなぜ健康で長生きなのか. 大阪大学公開講座. 2016年10月7日. 大阪.
11. 福武元良, 八田昂大, 池邊一典, 新井康通, 神出計, 前田芳信. 高齢者における唾液分泌と栄養摂取との関連-SONIC STUDY より-. 第38回日本臨床栄養学会総会. 2016年10月7日. 大阪.
12. 松田謙一, 池邊一典, 小川泰治, 北村正博, 村上伸也, 前田芳信, 天野敦雄. 大阪大学歯学部取組について～大規模調査, SONIC 研究への参加～. 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革平成28年度連携シンポジウム. 2016年10月24日. 福岡.
13. 小川泰治, 松田謙一, 池邊一典, 前田芳信, 天野敦雄. 大阪大学歯学部取組について～要介護者シミュレーターを用いた実習～. 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革平成28年度

	<p>連携シンポジウム. 2016年10月24日. 福岡.</p> <p>14. 福武元良, <u>池邊一典</u>, 猪俣千里, <u>小川泰治</u>, 八田昂大, 三原佑介, 武下肇. 榎木香織, <u>松田謙一</u>, 前田芳信. 高齢者における口腔立体認知能と食品摂取との関連 –SONIC Study より–. 日本補綴歯科学会関西支部総会. 2016年10月30日. 大阪.</p> <p>15. Hatta K, Mihara Y, <u>Ikebe K</u>, <u>Matsuda K</u>, <u>Gondo Y</u>, Masui Y, Maeda Y. Influence of occlusal support on walking speed: A longitudinal investigation from SONIC study. Gerontological Society of America Annual Scientific Meeting. 18 Nov, 2016. New Orleans, USA.</p> <p>16. <u>Ogawa T</u>, <u>Ikebe K</u>, Maeda Y. Longitudinal study of factors affecting taste sense decline in old-old individuals. The 6th Japan-Thailand-Korea Joint Symposium. 30 Nov, 2016. Bangkok, Thailand.</p> <p>17. <u>池邊一典</u>. 歯と口腔機能が高齢者の非健康状態に及ぼす影響: 文理融合型コホート研究より 日本歯科医学会・国際歯科研究学会日本部会共催シンポジウム. 2016年12月17日. 東京.</p> <p>知財 該当事項なし</p> <p>受賞等 三原佑介. 日本補綴歯科学会第125回学術大会. 優秀ポスター賞.</p>
事業費の使途	<p>消耗品 舌圧プローブ (25本入) など ¥173,007</p> <p>旅費 国内旅費 ¥647,728</p> <p>その他 血液検査など ¥179,265</p>

平成28年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

連携大学名	岡山大学	連携大学事業推進委員	窪木拓男	事務担当者	成本浩二
-------	------	------------	------	-------	------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	窪木拓男 浅海淳一 久保田 聡 宮脇卓也 鳥井康弘 飯田征二 曾我賢彦	副学長 歯学部長 委員長 部会長 部門長 部長 副部長	事業責任者 本学部責任者 教務委員会 臨床実習実施部会 卒後臨床研修センター歯科部門 医療支援歯科治療部 医療支援歯科治療部	☑・否
教育プログラム・コース名	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある医療支援歯学教育プログラム「口腔・全身健康実践」コース—周術期口腔管理・摂食嚥下機能回復・在宅歯科医療— ・医療支援歯学教育コースワーク 1. 要介護高齢者を模したシミュレーターや老人介護・在宅介護施設を用いたPBL演習 ・医療支援歯学教育コースワーク 2. 岡山大学病院周術期管理センターを利用した高度医療支援周術期口腔機能管理実習 ・医療支援歯学教育コースワーク 3. 臨床講師等を利用した在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習 			
事業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ウェブ授業シリーズのコンテンツの作成を継続し、蓄積する。 ② 連携校間や協力施設への教員FD, 学生交流を実施する。 ③ がん化学療法・周術期等の医療を支える口腔管理シンポジウムを開催する。 ④ 特徴あるCWシラバスの修正, 実施を行う。 ⑤ 事業推進委員会を開催し, 各連携大学での事業進捗状況を確認する。 ⑥ 当該分野における国際交流と広報を行う。 ⑦ 自己評価報告書の作成および外部評価委員会を開催する。 			
成果	<ol style="list-style-type: none"> ① ウェブ授業シリーズのコンテンツをより実践的な内容のものにブラッシュアップし, 来年度からの視聴の準備が整った。また, 講義室でのe-learning実施用の認証スイッチを増設したことで, 視聴・テスト受講環境が向上した。連携大学での収録コンテンツの収集およびサーバーへの格納が完了しており, コンテンツのよりいっそうの充実を図ることができた。 ② 協力施設の東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センターより清水哲郎特任教授および会田薫子特任准教授を招聘し, 特別講演会を開催した。本講演会は本学部教員のためのFD講演会として開催し, 教育資質向上のための良い機会とすることができた。 ③ 兵庫医科大学でのシンポジウム「食べられる口をCREATE ～周術期から在宅医療まで～」に参加し, 周術期医療を支える多くの職種からの講演を拝聴したことで, 来年度以降に同様の口腔管理シンポジウム開催をするための多くの知識を得ることができた。 ④ 岡山大学病院初期歯科臨床研修プログラムの一環として, 本事業の「口腔・全身健康実践」コースを実施した。また, 学部学生対象の教育プログラムとして, 「シミュレーション実習」, 「介護施設を用いたPBL演習」, 「高度医療支援・周術期口腔機能管理実習」および「在宅介護歯科医療実習」を実施し, 単位認定を行った。 ⑤ 平成27年10月24日に, 九州大学にて第4回歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会開催し, 連携大学より進捗状況の報告があった。来年度以降は均てん化をより一層推進していくことを示し合せた。 ⑥ MASCC/ISOOとの連携を目的に, オーストラリアで交流を行った。 ⑦ 自己評価を行った。自己評価報告書を外部評価の資料とし, 本年度は外部評価委員の先生方へ送付する形式にて外部評価をお願いした。 			

本プロジェクトに関連した業績, 知財, 受賞等

論文・学会発表・講演会・シンポジウム等

【論文】

- Hashimoto Y, Sugimoto K, Tanaka Y, Oki K, Minagi S : A new occlusal surface design for artificial posterior teeth to achieve high masticatory performance. J Prosthodont Res. 17 June 2016
- Manda Y, Maeda N, Pan Q, Sugimoto K, Hashimoto Y, Tanaka Y, Kodama N, Minagi S: New method of neck surface electromyography for the evaluation of tongue-lifting activity. J Oral Rehabil. 43(6):417-425 June 2016
- Kobayashi N, Soga Y, Maekawa K, Kanda Y, Kobayashi E, Inoue H, Kanao A, Himuro Y, Fujiwara Y : Prevalence of oral health-related conditions that could trigger accidents for patients with moderate-to-severe dementia. Gerodontology, 34: 129-134, 2017
- 太田 圭二, 宮崎 文伸, 川上 滋央, 佐藤 匡晃, 古西 隆之, 村田 尚道, 兒玉 直紀, 皆木省吾 : 舌切除患者を対象としたソフトPAPの製作方法. 顎顔面補綴, 39: 80-85, 2016

【総説論文】

- 園井教裕 : 医療現場を利用したチーム医療同行実習の評価法探究 “歯学部生に将来のチーム医療への参加を促すために”. 新しい医学教育の流れ, 第15巻4号, 207-208, 2016
- 村田 尚道, 森松 博史, 民井 亨, 外山 裕章 : 術後経口摂取再開の指標について. 臨床麻酔, 40: 1045-1048, 2016

【著書】

- 杉本恭子, 皆木省吾 : 食塊粒度解析による咀嚼能力検査 (食塊粒度解析法). 新 よくわかる顎口腔機能 咬合・摂食嚥下・発音を理解する, 医歯薬出版株式会社, 158-159, 2017. 2. 10

【学会発表】

- 園井教裕 : 歯学部生のターミナルケア態度に関する現状と今後の課題. 第21回日本緩和医療学会学術大会, 京都市, 2016. 6. 17-18
- 山口恵梨香, 鳥巢哲朗, 杉本恭子, 田中美保子, 多田浩晃, 黒木唯文, 片山昇, 皆木省吾, 村田比呂司 : 食品周囲のトロミの変化が嚥下時の食塊状態に及ぼす影響. 日本老年歯科医学会第27回総会・学術大会, 徳島市, 2016. 6. 18-19
- 村田 尚道 : 口腔癌術後患者の摂食嚥下障害の一症例. 日本老年歯科医学会第27回総会・学術大会, 徳島市, 2016. 6. 18-19
- 武田宏明, 白井 肇, 塩津範子, 鈴木康司, 河野隆幸, 杉本恭子, 吉田登志子, 浅海淳一, 窪木拓男, 鳥井康弘 : 岡山大学病院歯科医師臨床研修における在宅歯科医療研修の改善に向けて. 第35回日本歯科医学教育学会総会及び学術大会, 吹田市, 2016. 7. 1-2
- 杉本恭子, 宮脇卓也, 原 哲也, 武田宏明, 曾我賢彦, 鳥井康弘, 窪木拓男, 浅海淳一 : 岡山大学における在宅・訪問歯科診療実習の実績報告. 第35回日本歯科医学教育学会総会及び学術大会, 吹田市, 2016. 7. 1-2
- 杉本恭子, 宮脇卓也, 武田宏明, 前田 茂, 窪木拓男, 浅海淳一 : 在宅歯科診療用シミュレーターを用いたシミュレーション教育の有効性の検討. 第35回日本歯科医学教育学会総会及び学術大会, 吹田市, 2016. 7. 1-2
- 園井教裕, 曾我賢彦, 山中玲子, 室 美里, 前田あずさ, 川瀬明子, 杉本恭子, 飯田征二, 窪木拓男, 浅海淳一 : 5年次歯学生を対象とした周術期チーム医療の現場を体験させる演習が多職種連携の認識に及ぼした影響. 第35回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 吹田市, 2016. 7. 1-2
- 園井教裕, 曾我賢彦, 飯田征二, 浅海淳一 : 1年生歯学生を対象とした終末期を含めた緩和医療に関する講義がターミナルケア態度に及ぼした影響. 第35回日本歯科医学教育学会および学術大会, 吹田市, 2016. 7. 1-2
- 川瀬明子, 前田あずさ, 園井教裕, 宮脇卓也, 窪木拓男, 浅海淳一 : 岡山大学歯学部で行ったCODAによる教育認証評価に基づいた外部評価の試み. 第35回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 吹田市, 2016. 7. 1-2
- 藤田麻里子, 柳 文修, 久富美紀, 此内浩信, 村上 純, 前田あずさ, 窪木拓男, 宮脇卓也,

- 仲野道代, 皆木省吾, 浅海淳一:平成27年度にODAPUSプログラムで岡山大学に留学した5カ国6校の学生の意識調査. 第35回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 吹田市, 2016. 7. 1-2
- ・村田尚道, 江草正彦, 杉本恭子, 武田宏明, 川瀬明子, 前田あずさ, 園井教裕, 曾我賢彦, 浅海淳一, 窪木拓男:在宅歯科医療に対する歯科研修医の意識調査. 第35回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 吹田市, 2016. 7. 1-2
 - ・田中美保子, 鳥巢哲朗, 多田浩晃, 山口恵梨香, 浪越建男, 杉本恭子, 皆木省吾, 村田比呂司:各種客観的咀嚼能率検査法に関する検討 - グルコセンサー®と食塊粒度計測法の比較-. 日本補綴歯科学会第125回学術大会, 金沢市, 2016. 7. 8-9
 - ・田邊雄一, 鳥巢哲朗, 山口恵梨香, 田中美保子, 多田浩晃, 浪越建男, 杉本恭子, 皆木省吾, 村田比呂司:客観的咀嚼能率検査法の比較 -グルコセンサー®と食塊粒度計測法-. 平成28年度日本補綴歯科学会九州支部, 中国・四国支部合同学術大会, 熊本市, 2016. 9. 3-4
 - ・村田尚道, 廣田啓, 宮脇卓也, 江草正彦:気泡含有粘液を用いた超音波装置による嚥下機能評価方法の検討. 第22回日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 新潟市, 2016. 9. 23-24
 - ・増井正典, 志茂剛, 吉岡徳枝, 伊原木聰一郎, 矢尾真弓, 奥井達雄, 岸本晃治, 西山明慶, 曾我賢彦, 佐々木朗:岡山大学病院口腔外科(病態系)において医療支援歯科治療部を介して医科歯科連携を行った口腔外科疾患の調査. 第37回岡山歯学会総会・学術集会, 岡山市, 2016. 10. 16
 - ・武田宏明, 杉本恭子, 川瀬明子, 前田あずさ, 園井教裕, 村田尚道, 曾我賢彦, 鳥井康弘, 窪木拓男, 浅海淳一:e-learningシステムの概要と岡山大学における運用方法について. 健康長寿を担う歯科医学教育改革 平成28年度連携シンポジウム, 福岡市, 2016. 10. 23-24
 - ・杉本恭子, 宮脇卓也, 原 哲也, 前田 茂, 川瀬明子, 武田宏明, 鳥井康弘, 窪木拓男, 浅海淳一:在宅・訪問歯科診療実習の実績報告および事前教育としてのシミュレーション実習について. 健康長寿を担う歯科医学教育改革 平成28年度連携シンポジウム, 福岡市, 2016. 10. 23-24
 - ・園井教裕, 曾我賢彦, 山中玲子, 室 美里, 前田あずさ, 川瀬明子, 杉本恭子, 飯田征二, 窪木拓男, 浅海淳一:多職種連携の基本的な能力及び姿勢を育む演習の構築-大学病院の医療現場を利用した演習の教育効果の検討と今後の課題-. 健康長寿を担う歯科医学教育改革 平成28年度連携シンポジウム, 福岡市, 2016. 10. 23-24
 - ・前田あずさ, 杉本恭子, 水口真実, 縄稚久美子, 前田直人, 武田宏明, 川瀬明子, 園井教裕, 窪木拓男, 浅海淳一:3年生を対象とした「介護施設を用いたPBL演習」の実施報告. 健康長寿を担う歯科医学教育改革 平成28年度連携シンポジウム, 福岡市, 2016. 10. 23-24
 - ・園井教裕:緩和医療に関する新しい歯学教育の取り組み. 東京オーラルマネジメント研究会 第6回学術研修会, 横浜市, 2016. 11. 13
 - ・武田宏明, 渡邊 翔, 塩津範子, 鈴木康司, 河野隆幸, 吉田登志子, 白井 肇, 鳥井康弘:臨床研修における在宅歯科医療に関する e-learning 講義の導入について. 第9回日本総合歯科学会総会・学術大会, 岡山市, 2016. 11. 19-20
 - ・村田尚道:食べる機能を支援するために. 第9回日本総合歯科学会, 岡山市, 2016. 11. 19-20
 - ・室美里, 曾我賢彦, 樋口智子, 片岡広太, 江國大輔, 前田嘉信, 谷本光音, 飯田征二, 森田学:造血幹細胞移植患者へのグリコペプチド系抗菌薬投与と口腔粘膜上細菌叢の変化. 第2回日本がん口腔支持療法学会学術大会, 静岡県駿東郡, 2016. 12. 17-18
 - ・園井教裕, 曾我賢彦, 飯田征二, 浅海淳一. 歯学部1年次生を対象とした終末期医療に関する一講義が学生の態度意識に及ぼした影響. 第2回日本がん口腔支持療法学会学術大会, 静岡県駿東郡, 2016. 12. 17-18
 - ・Sonoi N, Soga Y, Iida S, Kuboki T, Asaumi J: The necessity of a systematic curriculum on end-of-life care. 95th General Session & Exhibition of the IADR, San Francisco, 2017. 3. 22-25

【講演】

- ・村田尚道:摂食嚥下障害と評価. 岡山大学公開講座 第12回摂食嚥下リハビリテーション従事者研修会初級コース, 岡山市, 2016. 4. 27
- ・村田尚道:重度心身障害児の摂食嚥下障害への対応. 岡山県立早島支援学校 研修会, 都窪郡, 2016. 6. 6
- ・窪木拓男:超高齢社会における口腔インプラント治療のあり方-最期まで患者に寄り添うために-. 徳島大学歯学部4年生 特別講義, 徳島, 2016. 6. 8

- ・村田 尚道：病棟における摂食嚥下リハビリテーション. 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座 口腔衛生学部門 研修生研修会, 品川区, 2016. 6. 16
- ・窪木拓男：歯学教育における多職種連携教育の現状と課題. 一般社団法人日本老年歯科医学会他職種連携委員会 委員会発表, 大阪, 2016. 6. 30
- ・窪木拓男：歯科診療科を擁する国立大学病院のあり方. 鹿児島大学病院講義 特別講義, 鹿児島, 2016. 7. 27
- ・曾我賢彦：「MASCC/ISOO がん治療に伴う粘膜障害に対するエビデンスに基づいた臨床診療ガイドライン」の策定過程と概要. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会 シンポジウム16「本邦における口腔支持療法のこれから」, 神戸, 2016. 7. 30
- ・村田 尚道：薬を飲む時になぜ困る？～食べる機能と障害～. 岡山県薬剤師会, 岡山市, 2016. 9. 4
- ・窪木拓男：健康長寿宣言～高齢者の「食」を基盤とした健康増進, 介護予防, 虚弱予防～. 岡山大学歯学部同窓会京都府支部 創立10周年記念特別講演, 京都, 2016. 9. 18
- ・曾我賢彦：「MASCC/ISOO がん治療に伴う粘膜障害に対するエビデンスに基づいた臨床診療ガイドライン」について. 第26回日本口腔内科学会, 第29回日本口腔診断学会 合同学術大会, 岡山, 2016. 9. 23
- ・村田 尚道 摂食機能訓練その1, 2. 岡山大学公開講座 第12回摂食嚥下リハビリテーション従事者研修会上級コース, 岡山市, 2016. 10. 6
- ・杉本恭子：咀嚼能力と食形態レベルのマッチングを測る食塊粒度解析. 第23回日本歯科医学会総会分科会プログラム企画 日本顎口腔機能学会シンポジウム, 福岡市, 2016. 10. 23
- ・窪木拓男：超高齢社会における口腔インプラント治療のあり方ー最期まで患者に寄り添うためにー. 鶴見大学大学院 特別講演, 横浜, 2016. 10. 26
- ・村田 尚道：介護施設における摂食嚥下リハ. 今治市・越智郡歯科医師会講演会, 今治市, 2016. 10. 29
- ・村田 尚道：摂食嚥下リハビリテーション総論, 摂食嚥下機能の評価. 鳥取食支援研修会, 鳥取市, 2016. 11. 6
- ・曾我賢彦：病院医療に歯科の専門性はどう役立つか？ーがん口腔支持療法を切り口としてー. 第9回日本総合歯科学会 総会・学術大会 シンポジウム「超高齢社会における総合歯科の役割を考える」, 岡山, 2016. 11. 19
- ・村田 尚道：食べる機能の発達. トイロニジ〜ダウン症の子どもと家族の会〜, 福山市, 2016. 11. 23
- ・窪木拓男：健康長寿社会を担う歯科医学教育改革ー死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築ー. 課題解決型医療人材養成プログラム「健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム」5大学合同 Faculty Development 特別講演, 東京, 2016. 11. 29
- ・村田 尚道：摂食に関する指導について. 岡山県健康の森学園支援学校 摂食に関する研修会, 新見市, 2016. 11. 29
- ・村田 尚道：誰もが美味しく・楽しく・安全に・食べられるために. 岡山県栄養士会 医療・福祉事業部合同研修会, 岡山市, 2016. 12. 11
- ・村田 尚道, 田尻絢子 摂食嚥下機能の基本. ベッドサイドの摂食嚥下スクリーニング検査とVE研修会, 岡山市, 2016. 12. 18
- ・村田尚道：摂食嚥下機能の訓練. 死生学, 健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ1(生活習慣病と口腔), 3(在宅介護医療) コラボ企画 みんなで取り組む生活習慣病&在宅医療, 岡山市, 2016. 12. 19
- ・村田 尚道：食べる機能を支援する. 大和高田市歯科医師会講演会, 大和高田市, 2017. 1. 21
- ・村田 尚道：口の機能を支えるために. 老年歯科医学会岡山県支部セミナー. 岡山市, 2017. 2. 12
- ・村田 尚道：摂食嚥下障害への対応～「食べたい」を支援する～JSPEN32 Special LIVE in Kojima Educational Lecture. 第32回日本静脈経腸栄養学会. 岡山市, 2017. 2. 23-24
- ・村田 尚道, 小林 幸生：摂食嚥下障害の問題点, 嚥下内視鏡検査の評価方法, 嚥下内視鏡検査実習. 摂食・嚥下スクリーニング検査勉強会, 高槻市, 2017. 3. 4

【主催・共催講演会】

- ・死生学に関する特別講演会 (2016. 7. 8, 15, 岡山大学歯学部第一講義室) (参加者：137名) (資料29)
- ・医療支援歯学教育コースワーク第1回 死生学, 健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリ

	<p>ーズ1（生活習慣病と口腔），3（在宅介護医療）コラボ企画 みんなで取り組む生活習慣病 & 在宅医療（2016. 11. 24, 12. 1, 7, 岡山大学歯学部第一講義室 他）（参加者：52名）（資料30）</p> <p>【主催シンポジウム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度第1回在宅・歯科訪問診療教育シンポジウムー岡山大学歯学部における在宅・歯科訪問診療教育ー（2016. 9. 29, 岡山大学歯学部第一講義室）（参加者：100名）（資料15） ・平成28年度第2回在宅・訪問歯科診療教育シンポジウムー岡山大学歯学部における在宅・歯科訪問診療教育ー（2017. 3. 9, 岡山大学歯学部第一講義室）（参加者：91名）（資料16） <p>知財 なし</p> <p>受賞等 なし</p>
事業費の使途	<p>設備備品費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書作成，講義・実習用ノートPC <p>消耗品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習用器具，公開講座開催用文房具，講演DVD送付用封筒，資料印刷用インクカートリッジ <p>旅費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業に関連した学会への参加旅費，在宅・歯科訪問診療教育シンポジウム招聘講師旅費 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業推進のための特任助教および，事務員への人件費 ・本事業成果公開のためのホームページ保守，追加開発費 ・本事業に関連した学会への参加費

平成28年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

連携大学名	九州大学	連携大学 事業推進 委員	西村 英紀	事務担当者	内田 克彦
-------	------	--------------------	-------	-------	-------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示 の可否
事業組織	平田 雅人	学部長	本プログラムの本学部総責任者。他大学プログラムの連携について総指揮を行う。	☑・否
	高橋 一郎	副研究院長	本学部カリキュラムの総責任者。本プログラムの運用に助言する。	
	中西 博	副研究院長	本学部開設科目講義担当者。	
	西村 英紀	副研究院長	本プログラム本学部の開設科目世話人及び他大学プログラム連携責任者。	
	中村 誠司	教授	本学部臨床実習責任者。	
	柏崎 晴彦	教授	本学部臨床実習担当者。	
	和田 尚久	教授	本学部臨床実習担当者。	
	山下 喜久	教授	本学部開設科目講義担当者。	
	重村 憲徳	教授	本学部開設科目講義担当者。	
教育プログラム・コース名	九州大学先導的「口腔から全身への健康学」教育の高度化プログラム口腔健康科学特論			
事業計画	<p>九州大学歯学研究院が重点領域と位置付ける、「口腔健康科学」「組織の再生・再建研究」のうち、本プログラムと密接に関連した、「口腔健康科学」分野のトピックスを課題解決型の授業として昨年に引き続き実施した。</p> <p>「口腔健康科学特論」5年次集中講義、時期：臨床実習開始直前 9月26日（月） 1時限（8:40～10:10）臨床医学統計データの解析方法とその解釈 （口腔予防医学：竹内助教） 2時限（10:30～12:00）久山町研究から見る肥満・糖尿病と歯周病の関連性 （口腔予防医学：山下教授） 3時限（13:00～14:30） 肥満と睡眠時無呼吸症候群（医学研究院 睡眠時無呼吸センター：津田特任助教） 4時限（14:50～16:20）咀嚼と肥満</p>			

	<p>(藤瀬多佳子非常勤講師)</p> <p>9月27日(火)</p> <p>1時限(8:40~10:10) 味覚と肥満(口腔生理学:重村教授)</p> <p>2時限(10:30~12:00) 肥満のバイオロジー(歯周病学:西村教授)</p> <p>3時限(13:00~14:30) 肥満・糖尿病の関連性の多様性の理解と解決(歯周病学:西村教授)</p> <p>4時限(14:50~16:20) 口腔疾患と認知症(歯科薬理学:中西教授)</p> <p>開講の詳細は10月に開催された28年度連携大学シンポジウム(10月23日~24日:九州大学)において報告した。</p> <p>平成28年10月23日(日)及び24日(月)、本学で「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-平成28年度 連携シンポジウム」を開催し、歯学教育を取り巻く状況や他大学並びに本学の取り組みを紹介し、連携大学関係者、本学教員、学生と情報を共有した。また、シンポジウムの各講演はビデオに収録し、連携大学に配信した。</p> <p>在宅診療教育用高齢者シミュレータの購入し、本学研究院に新たに設置された高齢者歯科学・全身管理歯科学に就任した柏崎教授により、臨床実習の一環として同シミュレーターを使った講義を5年生全員対象に3月に実施予定。</p> <p>その他、他連携大学への実習視察や高齢者医療や嚥下評価研修などに関連学会や研修会に参加した。</p>
成果	<p>すべての授業後に学生アンケートを実施し、結果を本学で開催された28年度シンポジウムで報告した。次年度以降も開講することを決定した。</p> <p>在宅診療教育用高齢者シミュレータを用いた高齢者歯科学・全身管理歯科学教育を推進するために、鹿児島大学歯学部の実習視察、ハワイ大学視察および国際交流セミナー参加、日本有病者歯科医療学会参加により、高齢者歯科学に関し著名な研究教育者達と意見交換し、本学の臨床実習・講義として還元した。</p> <p>摂食咀嚼嚥下に関する口腔機能についてのセミナーに参加した。臨床的な口腔生理学の視点から多様化した摂食嚥下障害及び摂食嚥下リハビリテーションについての系統立てた指導プログラムを策定し、本学6年次のリサーチエクスポージャーで口腔総合歯科学における『高齢者の口腔機能』の指導として還元した。</p>
本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等	<p>論文・研究発表</p> <p>【高齢者歯科学・全身管理歯科学関連】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Matsukawa T, Kashiwazaki H, et al. Reduced-dose methotrexate in combination with tacrolimus was associated with rapid engraftment and recovery from oral mucositis without affecting the incidence of GVHD. <i>Int J Hematol.</i> 104(1): 117-24, 2016. 2. 岡田和隆, 柏崎晴彦他. 口腔カンジダ症における <i>Candida albicans</i> と <i>Candida glabrata</i> の混合感染の臨床的検討 老年歯科医学, 31(3): 346-353, 2016. 3. 柏崎晴彦, 山崎 裕. 「最新の歯学」産学連携による次世代型電解水を用いた口腔ケアシステムの開発. 北海道歯誌, 37: 51-52, 2016. <p>【栄養の経口摂取と摂食行動関連】</p>

4. Sanematsu K, Kitagawa M, Yoshida R, Nirasawa S, Shigemura N, Ninomiya Y. Intracellular acidification is required for full activation of the sweet taste receptor by miraculin. *Sci Rep.* 2016 Mar 10;6:22807. doi: 10.1038/srep22807.

5. Sukumaran SK, Yee KK, Iwata S, Kotha R, Quezada-Calvillo R, Nichols BL, Mohan S, Pinto BM, Shigemura N, Ninomiya Y, Margolskee RF. Taste cell-expressed α -glucosidase enzymes contribute to gustatory responses to disaccharides. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 2016 May 24;113(21):6035-40. doi: 10.1073/pnas.1520843113.

【医学統計関連】

6. Takeshita T, Kageyama S, Furuta M, Tsuboi H, Takeuchi K, Shibata Y, Shimazaki Y, Akifusa S, Ninomiya T, Kiyohara Y, Yamashita Y. Bacterial diversity in saliva and oral health-related conditions: the Hisayama Study. *Sci Rep.* 2016 Feb 24;6:22164. doi: 10.1038/srep22164.

7. Okabe Y, Furuta M, Akifusa S, Takeuchi K, Adachi M, Kinoshita T, Kikutani T, Nakamura S, Yamashita Y. Swallowing Function and Nutritional Status in Japanese Elderly People Receiving Home-care Services: A 1-year Longitudinal Study. *J Nutr Health Aging.* 2016;20(7):697-704. doi: 10.1007/s12603-015-0645-2.

【睡眠時無呼吸関連】

8. Tsuda H, Moritsuchi Y, Higuchi Y, Tsuda T. Oral health under use of continuous positive airway pressure and interest in alternative therapy in patients with obstructive sleep apnoea: a questionnaire-based survey. *Gerodontology.* 2016 Sep;33(3):416-20. doi: 10.1111/ger.12184.

【肥満・糖尿病関連】

9. Shinjo T, Iwashita M, Yamashita A, Sano T, Tsuruta M, Matsunaga H, Sanui T, Asano T, Nishimura F. IL-17A synergistically enhances TNF α -induced IL-6 and CCL20 production in 3T3-L1 adipocytes. *Biochem Biophys Res Commun.* 2016 Aug 19;477(2):241-6. doi: 10.1016/j.bbrc.2016.06.049.

10. Sano T, Nagayasu S, Suzuki S, Iwashita M, Yamashita A, Shinjo T, Sanui T, Kushiya A, Kanematsu T, Asano T, Nishimura F. Epicatechin downregulates adipose tissue CCL19 expression and thereby ameliorates diet-induced obesity and insulin resistance. *Nutr Metab Cardiovasc Dis.* 2016 Nov 23. pii: S0939-4753(16)30200-9. doi: 10.1016/j.numecd.2016.11.008.

【認知機能関連】

11. Wu Z, Yu J, Zhu A, Nakanishi H. Nutrients, Microglia Aging, and Brain Aging. *Oxid Med Cell Longev.* 2016;2016:7498528. doi: 10.1155/2016/7498528.

12. Takayama F, Hayashi Y, Wu Z, Liu Y, Nakanishi H. Diurnal dynamic behavior of microglia in response to infected bacteria through the UDP-P2Y6 receptor system. *Sci Rep.* 2016 Jul 21;6:30006. doi: 10.1038/srep30006.

事業費の使途

備品
在宅診療教育用高齢者シミュレータ DR-MOMO 1台
消耗品
シミュレーター用消耗品
シンポジウム関係消耗品
関連書類保管関係消耗品
旅費

シンポジウム講師 旅費×3名
兵庫医科大学 2名 オーラルマネジメント「CREATE」
鹿児島大学歯学部 実習視察 3名
大阪大学歯学部 第34回TOUCH摂食嚥下アドバンスセミナー 1名
大阪大学歯学部 DHP歯科医師対象嚥下研修会 1名
岡山大学歯学部 e-learning講習会 1名
一般社団法人日本有病者歯科医療学会（東京） 1名
第6回ハワイ国際交流セミナー&視察研修 1名
日本有病者歯科医療学会（石川） 1名
嚥下機能評価研修会 PDN VEセミナー（東京） 1名
非常勤講師 2名

その他

シンポジウムに係る講師謝金×1名
シンポジウム会場使用料
シンポジウム妙録集 200部他 印刷
第34回TOUCH摂食咀嚼嚥下アドバンスセミナー 参加費
一般社団法人日本有病者歯科医療学会 参加費
DHP 歯科医師対象嚥下研修会 参加費
嚥下機能評価研修会 参加費
第6回ハワイ国際交流セミナー 参加費
非常勤講師謝金×2名
講演収録 委託費
関係書類 送付料

平成28年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革－死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築－」事業

連携大学名	長崎大学	連携大学事業推進委員	澤瀬 隆	事務担当者	馬場 敬三
-------	------	------------	------	-------	-------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	澤瀬 隆 齋藤 俊行 角 忠輝	教授(口腔インプラント学) 教授(口腔保健学) 教授(総合歯科臨床教育学)	歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会委員 歯学教育改革コンソーシアム実習コーディネーター 歯学教育改革コンソーシアム教育カリキュラム開発・編成担当	☑・否
教育プログラム・コース名	長崎大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム・離島歯科口腔医療・保健・福祉学実習			
事業計画	<p>長崎県は全国で最も多くの離島を有し、離島地域の高齢化率は35%を超え、わが国の超高齢社会がすでに具現化されている。健康長寿社会の貢献マインドを涵養するにあたり、この地は絶好の教育現場であると言える。長崎大学歯学部では、離島等の地域歯科医療を担う歯科医師養成を目的として、宿泊施設を有する「長崎大学歯学部離島歯科保健医療研究所(五島市富江町)」を拠点として、医学部、薬学部と共に多職種連携による「地域医療一貫教育」を行う。すなわち、医歯薬の医療系3学部の共修で、実際に学生が離島に赴き、滞在し、離島医療を実体験しながら医療・保健・福祉学を学ぶことで、在宅介護実習と医科歯科連携を実践する。さらには昨年引き続き、他大学選択履修者を対象とした同実習をサマースクールとして実施する。</p> <p>平成28年度の事業計画は以下のとおりである。</p> <p>① 8月～9月 他大学選択履修者を対象としたサマースクールを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習方法：本年度は1クール4名程度の他大学選択履修者に対し、連続5日間五島市にて滞在型実習を実施(2クール計8名)。病棟に始まり、一般歯科まで重症度・介護度が軽くなるように実習施設を配し、さまざまな身体状況の方々の医療介護の現場で歯科医として求められるものはなにかを学生に考察させる。 月AM 離島実習全般/口腔嚥下ケア講義(長崎大学歯学部離島歯科保健医療研究所) 月PM 病棟嚥下回診(五島中央病院病棟) 火 特別養護老人ホーム 介護と口腔嚥下ケア(只狩荘) 水 通所介護 介護と口腔嚥下ケア(社会福祉協議会富江支所デイサービス) 木 歯科医院 2次離島・往診等(岐宿歯科診療所、久賀歯科診療所) 金AM グループディスカッション(長崎大学歯学部離島歯科保健医療研究所) <p>② 10月～3月 本年度診療参加型臨床実習開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習方法：1組4～5名ずつ、H28年10月から10クールに分かれて、連続5日間五島市にて滞在型実習を長崎大学臨床実習生に対して実施(年間計45名) ・実習項目、到達目標のガイダンスとディスカッション ・離島歯科口腔医療実習：民間歯科医院による往診に帯同し、見学ならびに補助を行う。 ・離島福祉施設実習：五島市社会福祉協議会「デイ・はまゆう」ならびに要介護施設只狩荘にて介護スタッフの補助、口腔ケアの実践を行い、高齢者歯科保健に必要な知識、態度、技能を学ぶ。また福祉現場での介護スタッフとの連携を体験する。 ・離島保健医療実習：五島市健康政策課・長寿介護課における、行政が実施している保健予防事業への参加を通じて公衆衛生上、必要な知識、態度、技能を学ぶ。 ・グループディスカッション：各学生のポートフォリオを基に同クールに参加の医学部、薬学部学生とともにグループディスカッションを行い、互いの学びの共有、問題点の抽出を行う。 <p>③ 10月 平成28年度連携シンポジウム(九州大学)ならびに同事業推進委員会に出席</p> <p>④ 2月 歯学部講演会「生と死に関わる歯科医療－いのちと向き合っ－」を開催</p> <p>⑤ 2月 平成28年度下五島地区離島医療教育研究会(五島市)にて実習指導報告</p>			

成果	<p>① 8月1日～5日 離島医療サマースクール第1クール実施（昭和大2名、九州大1名）</p> <p>② 9月7日～9日 離島医療サマースクール第2クール実施（九州大2名、長崎大1名）</p> <p>③ 10月～平成29年3月 本年度診療参加型臨床実習</p> <p>④ 10月23日～24日 平成28年度連携シンポジウム（九州大学）ならびに同事業推進委員会に出席（澤瀬、齋藤、角、藤原、村田、小山）</p> <p>⑤ 2月3日 歯学部講演会「生と死に関わる歯科医療 –いのちと向き合って–」（演者：医療法人とよた歯科医院 武田 康男先生）を開催し、本プログラムのコンテンツとして収録</p> <p>⑥ 2月28日 平成28年度下五島地区離島医療教育研究会（五島市）にて実習指導報告（角）</p>												
本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等	<p>論文・研究発表</p> <p>1. 小山善哉、齋藤俊行、角 忠輝、澤瀬 隆：長崎大学歯学部離島歯科保健医療サマースクール報告 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム（健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成）選定事業 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—平成28年度連携シンポジウム，福岡，10月 {プログラム・抄録集，p25，2016}</p> <p>2. 角 忠輝、小山善哉、齋藤俊行、澤瀬 隆：歯学部臨床実習生による平成27年度離島医療保健実習報告（於 平成28年度下五島地区離島医療教育研究会 五島市）</p> <p>知財 無し</p> <p>受賞等 無し</p>												
事業費の使途	<p>設備備品費</p> <p>コンテンツ作成マシン（木村情報技術株 3eRecIII-wおよびビデオカメラ一式）2,794,699円 在宅診療教育用シミュレータ（モリタ製作所 DR-MOMO）1,620,000円 往診時ハイジニスト用ユニット（モリタ製作所 ポータキューブタイプH）421,200円</p> <p>医療支援歯学教育コースワーク均てん化のために上記コンテンツマシンを導入した。また、平成28年度離島医療保健実習において、在宅診療教育用シミュレータを用いて介護法について学んだ後、急性期病院（五島中央病院）、老人保健施設訪問診療（只狩荘）および在宅診療にて、往診時ハイジニスト用ユニットを当該施設に持ち込み、口腔ケアおよび摂食・嚥下リハビリテーション教育（見学、介助）に使用した。</p> <p>旅費：国内旅費</p> <table border="0"> <tr> <td>サマースクール実施に係る事前打合せ</td> <td>2名</td> <td>58,182円</td> </tr> <tr> <td>サマースクール実施（引率）</td> <td>6名</td> <td>300,040円</td> </tr> <tr> <td>学生向け講演会講師招聘</td> <td>1名</td> <td>24,440円</td> </tr> <tr> <td>シンポジウム及び事業推進委員会参加</td> <td>6名</td> <td>78,900円</td> </tr> </table> <p>謝金：サマースクールにおける実習施設 7件 81,400円 学生向け講演会講師 1名 11,000円</p> <p>消耗品：サマースクール実施に係る消耗品類一式 206,371円</p> <p>役務：サマースクール実施に係る寝具借上げ等一式 3,768円</p>	サマースクール実施に係る事前打合せ	2名	58,182円	サマースクール実施（引率）	6名	300,040円	学生向け講演会講師招聘	1名	24,440円	シンポジウム及び事業推進委員会参加	6名	78,900円
サマースクール実施に係る事前打合せ	2名	58,182円											
サマースクール実施（引率）	6名	300,040円											
学生向け講演会講師招聘	1名	24,440円											
シンポジウム及び事業推進委員会参加	6名	78,900円											

平成28年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

連携大学名	鹿児島大学	連携大学事業推進委員	宮脇 正一	事務担当者	濱平 幸典
-------	-------	------------	-------	-------	-------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	宮脇 正一 西村 正宏 田口 則宏 南 弘之	歯学部長 副学部長 臨床教育部会委員 臨床教育部会長	事業責任者 教育カリキュラム開発・編成担当 実習コーディネーター 講義コンテンツ作成	可
教育プログラム・コース名	鹿児島大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム 「奄美大島・与論島における口腔と全身の健康学コース」			
事業計画	<p>【目的】住民の高齢化と医療過疎の問題を抱える地域・離島における歯科診療の実態を理解させることで、地域のニーズに応じた包括的歯科医療を推進できる歯学生・歯科医療人を養成する。</p> <p>【計画】</p> <p>1) 昨年度から開始した、「奄美大島・与論島における口腔と全身の健康学コース」のタイトルで講義および体験型実習（奄美大島、与論島、種子島、徳之島、沖永良部島、屋久島への派遣型歯科医療実習）形式の教育コースを、引き続き本学歯学部生対象に開講する。これにより高齢化と医療過疎の問題を抱えたこれらの島々をモデル地域として、地域医療を大切にする医療人マインドに富んだ歯学部学生の育成を図る。この教育コースの対象学生は、本学歯学部生のみでなく、ビデオ録画を利用したe-learning形式の授業と、派遣型歯科医療実習への参加募集によって、本事業の他の連携大学歯学部生にも受講可能とする。</p> <p>2) 昨年度、介護歯科医療シミュレータを歯学部学生臨床実習用スキルラボに導入し、より実践に即した高齢者歯科医療の臨床実習の場を実現したが、全学生への教育は行えなかった。本年度臨床実習より、高齢者歯科医療実習を臨床実習カリキュラムに組み込み、全臨床実習生へ教育を行う体制とする。</p> <p>3) 鹿児島国際歯学シンポジウムの開催 「グローバルな健康長寿に向けた歯学教育と災害対策について考える」をテーマに、超高齢社会と防災歯科に対応する歯学教育のあり方ならびに日本と同様地震大国であるインドネシアにおける法歯学の現状とエアランガ大学における法歯学教育の現状と展望について、本学歯学部の協定校であるエアランガ大学からお二人の先生をお招きして、お話し頂く予定。本シンポジウムにより、参加者の防災歯科への理解が深まり、それが今後の健康長寿に向けた歯学教育の改革に繋がることを期待する</p>			
成果	<p>【平成28年度の活動状況】</p> <p>1) 特色ある医療支援歯学教育プログラム「奄美大島・与論島における口腔と全身の健康学コース」の実施</p> <p>① 講義：講義「患者と医療」において、多職種連携や病診連携、地域での口腔保健活動に関する講義を行なった。計5回の講義の内容を、本プログラムによって整備されたコンテンツ作成システム（3eRecⅢ）を用いて収録し、ビデオコンテンツの作成に備えている。</p> <p>② 体験型実習：本学の学生については、平成28年5～7月に種子島、奄美大島および与論島において合計25名の6年生が4泊5日の実習に参加した。平成28年8～9月には、種子島および与論島で3泊4日間の実習を企画し、連携大学の岡山大学から3名、昭和大学から2名の歯学部生</p>			

	<p>、および兵庫医科大学から1名の後期研修歯科医の参加があり、実習後のアンケートでも受講者から高い評価を得た。</p> <p>2) スキルストラボの充実 本プログラムより昨年度、高齢者歯科医療に対する介護歯科医療シミュレータを配分され、本学ではスキルストラボに配置し臨床教育での活用を行っている。昨年度の臨床実習では時期の関係で希望者に対して試行的に実習を行ってきたが、本年度より全臨床実習生に対して実習を行っており、現在も継続中である。</p> <p>3) 鹿児島国際歯学シンポジウムの開催 2月18日に鹿児島大学にて第2回鹿児島国際歯学シンポジウムを開催し、160名の参加者があった(別紙ポスター参照)</p>
<p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p>	<p>論文・研究発表</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 田口則宏. アウトカム基盤型教育に基づくカリキュラム改革2, 福岡歯科大学特別講演, 2016年6月, 福岡市. 2. 田口則宏, 小松澤均, 松口徹也, 宮脇正一. 鹿児島大学歯学部におけるアウトカム基盤型教育に基づくカリキュラム改革—導入までのプロセス—, 第35回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 2016年7月, 大阪市. 3. 大戸敬之, 中山歩, 岩下洋一朗, 松本祐子, 吉田礼子, 田口則宏. 離島歯科医療実習から学生たちが学んだこと, 第35回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 2016年7月, 大阪市. 4. 田口則宏. アウトカム基盤型教育とポートフォリオ. 神奈川歯科大学FD講演, 2016年10月, 横須賀市. 5. 南弘之, 宮脇正一, 西村正宏, 杉浦剛, 小松澤均, 田口則宏, 松口徹也, 於保孝彦. 鹿児島大学のこれまでの取り組み, 平成28年度 連携シンポジウム, 2016年10月, 福岡市. 6. 中山歩, 大戸敬之, 田口則宏. 鹿児島県の離島における歯科医療の現状, 第9回日本総合歯科学会総会・学術大会, 2016年11月, 岡山市 7. 首藤将太, 窪園遥, 大庭侑子, 吉田礼子, 田口則宏. 研修歯科医における研修修了後の進路の傾向と特徴, 第9回日本総合歯科学会総会・学術大会, 2016年11月, 岡山市 8. 田口則宏. アウトカム基盤型教育—今後のカリキュラム改革の方向性—, 岡山大学歯学部FD講演, 2016年12月, 岡山市 9. 田口則宏. アウトカム基盤型教育とポートフォリオ. 日本歯科大学新潟生命歯学部FD講演, 2017年1月, 新潟市. 10. 田口則宏. 鹿児島大学歯学部におけるアウトカム基盤型教育, 福岡歯科大学 平成28年度AP中間報告会, 2017年3月, 福岡市. <p>知財 なし</p> <p>受賞等 なし</p>

事業費の使途	<p>備品</p> <ul style="list-style-type: none">・コンテンツ作成マシン購入（3 eRecⅢ-w） <p>消耗品</p> <ul style="list-style-type: none">・鹿児島国際歯学シンポジウムポスター・プログラム <p>旅費</p> <ul style="list-style-type: none">・離島実習に係る引率（種子島・与論島）・連携シンポジウム参加（九州大学開催）・鹿児島国際歯学シンポジウム学外者招聘（海外2名・国内3名） <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none">・学生実習宿泊所室料（種子島・与論島）・学生実習受入謝金（種子島・与論島）・鹿児島国際シンポジウム講演謝金・抄録集印刷費
--------	--

平成28年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」事業

連携大学名	岩手医科大学	連携大学事業推進委員	城 茂治	事務担当者	近藤 敬
-------	--------	------------	------	-------	------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	三浦廣行 城 茂治 佐藤和朗 石崎 明 野田 守 岸 光男 阿部晶子 玉田泰嗣	歯学部長 歯学部教授 歯学部教授 歯学部教授 歯学部教授 歯学部教授 歯学部准教授 歯学部助教	プロジェクト統括 教育コンソーシアム事業推進委員 実習コーディネーター カリキュラム開発・編成担当 実習コーディネーター 実習コーディネーター 実習コーディネーター 実習コーディネーター	<input checked="" type="checkbox"/> ・否
教育プログラム・コース名	入院時・災害時のベッドサイドにおける食支援と口腔ケアに関する教育の高度化プログラム			
事業計画	<p>本教育プログラムの目的は非常時（入院時・災害時）において、他職種連携の上で専門的な口腔のリハビリテーション、ケア、管理を行い、ベッドサイドにおける食べる機能の支援と感染防御を実践できる研究能力を持った指導的な口腔機能の専門家を養成することにある。</p> <p>平成28年度は、前年度に実施した実習や適宜調整された計画通りに本教育プログラムを実施する。また、各実習コースの実施中ならびに終了時に本年度の教育成果を各コース責任者とともに分析し、次年度以降の更なる成果が得られるような改善のための問題点を抽出するとともに、それに応じた対策をとる。加えて、本年度教育内容の反省点をもとに平成29年度に向けた実質的な新規大学院シラバス案を作成し、実りある教育プログラムの実施に向けて準備を進める予定である。なお、今年度は大学院共通教育コースの選択科目としての位置づけとする。</p>			
成果	<p>1. 「被災地口腔ケア・食支援実習」</p> <p>平成27年には大学院の選択コースとして正規の課程に組み入れた本実習は、今年度に2年目を迎えた。11月期（平成28年11月12日～13日）に大学院生4名計2日の実習を実施した。実習の内容は平成27年度のトライアルと同様に、</p> <p>① 被災地における健康調査への参加 ② 被災地の復興状況の視察 ③ 被災地におけるミニシンポジウムへの参加（地元歯科医師、保健師の参加）とした。</p> <p>ただし、日程の都合上、KJ法による口腔保健関連問題の抽出は割愛した。 一方、新規の研修項目として</p> <p>④ 被災地研修後に指導者が研修により得られたデータを統計解析ソフト SPSS（新規購入）により解析し、2011年度の調査結果と比較下結果をプレゼンすることにより、口腔保健の復興状況について理解させた。</p> <p>評価としては事後のみにアンケートを実施した。その結果、参加者のほとんどが大学院研修または若手歯科医師の研修として本研修が「非常に役立った」また「役立った」と評価した。自由記載欄への回答からは被災地での実体験の重みを感じて感想として記載する者が多かった。</p> <p>2. 「摂食嚥下リハビリテーション・口腔ケア実習」の実習を下記の通り実施した。</p> <p>第1回（予定）：3月14日（火） 17時～21時 摂食嚥下のメカニズムと障害、診察法、スクリーニングテスト、精密検査 17時～17時5分 開会挨拶 17時5分～17時15分 プリアンケート</p>			

	<p>17時15分～18時10分 摂食嚥下概論、メカニズム、摂食嚥下障害の診察 18時15分～19時10分 治療計画立案、嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査 19時20分～20時10分 実習：治療計画、スクリーニングテスト、嚥下内視鏡検査、吸引 20時20分～21時 まとめ、質疑応答、ポストアンケート</p> <p>第2回（予定）：3月21日（火） 17時～21時 栄養と介護</p> <p>17時～17時5分 開会挨拶 17時5分～17時15分 プレアンケート 17時15分～18時10分 栄養概論、介護概論、口腔ケア概論 18時15分～19時10分 実習：口腔ケア（病棟）、介護 19時20分～20時10分 実習：直接訓練、間接訓練 20時20分～21時 まとめ、質疑応答、ポストアンケート</p> <p>3. 「栄養サポートチーム（NST）・緩和ケア実習」 本学緩和医療学科の木村祐輔教授による、「緩和ケア最近の話題」についての講義を行った。緩和ケアの歴史から、緩和ケアの概念、本学緩和ケアチームの活動、ならびに緩和ケアと予後についての講義があり、16名の大学院生が聴講した。</p> <p>4. 「災害時口腔ケアに関わるシンポジウム」の開催：平成28年12月5日に本学歯学部と岩手県歯科医師会との共同開催シンポジウム「東日本大震災から5年を振り返って～我々がしてきたこと、してこなかったこと、これからすべきこと～」を開催した。 （プログラム）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「東日本大震災から5年を振り返って～我々がしてきたこと、してこなかったこと、これからすべきこと～」 大黒英貴（岩手県歯科医師会） 2. 「東日本大震災から5年を振り返って」 多田康子（岩手県歯科衛生士会） 3. 「東日本大震災津波後の岩手県における災害歯科保健医療の取組について」 森谷俊樹（岩手県保健福祉部） 4. 「被災地大槌町の歯科健康調査でしてきたこと、してこなかったこと、これからすべきこと」 岸 光男（口腔医学講座予防歯科学分野） 5. 「東日本大震災から5年を振り返って」 佐々木憲一郎（ささき歯科医院院長） <p>岩手医科大学と岩手県歯科医師会をはじめ、地域連携による災害医療の実際と今後の課題について行政側の意見も織り交ぜながら、各方面より今後の対応などについて議論された。また、今回のシンポジウムのように災害医療について多方面から分析をするような機会を将来にわたり継続して設けるべきであるとの意見で一致した。本シンポジウムのプロシーディングを岩手歯学会雑誌より平成29年7月に発行予定である。</p> <p>5. コンテンツ視聴システムの利用開始 コンテンツ視聴システムの利用を開始した。具体的には、講義シリーズ3（在宅介護医療）のe-learningコンテンツ（「長寿時代のエンドオブライフ・ケア」、「要介護高齢者における口腔管理の重要性」、「認知症における口腔管理」）を5年生に視聴させ、終了後に小テストを実施した。</p>
<p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p>	<p>論文・研究発表</p> <p>知財</p> <p>受賞等</p>

事業費の使途

旅費 446,540円

【国内旅費】 446,540円

平成28年度連携シンポジウム 10月 福岡

教員 3名 139,180円×1名(2泊3日) + 72,360円×1名(1泊2日) + 67,960円×1名(1泊2日) = 279,230円

教育プログラム 11月 釜石・大槌(岩手)

教員 2名 17,000円×1名(1泊2日) = 17,000円(1泊2日)

学生 4名 14,200円×4名 = 56,800円(1泊2日)

交通運搬費 86,450円(盛岡⇄釜石市・大槌町 移動分)
7,060円(現地 移動分)

謝金 38,979円

教育プログラムにかかる外部講師謝金 及川 陽次(開業医) 38,979円

設備備品費 262,224円

ノートパソコン 62,424円

歯科用口腔内カメラ 199,800円

消耗品費 257,555円

マイクロソフトオフィス 18,360円

統計解析ソフトウェア 239,195円

平成28年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

連携大学名	日本大学	連携大学事業推進委員	前野正夫	事務担当者	鈴木輝一
-------	------	------------	------	-------	------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	前野正夫 磯川桂太郎 植田耕一郎	歯学部長 学務担当 教授	歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会委員 歯学教育改革コンソーシアム教育カリキュラム開発・編成担当 歯学教育改革コンソーシアム実習コーディネーター	可
教育プログラム・コース名	日本大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム アドバンスト歯科学講義・実習—摂食機能療法学			
事業計画	<p>1. 第6学年卒前教育の摂食機能療法学・高齢者歯科学実習カリキュラムの見直し：</p> <p>①. 平成28年度における実習カリキュラムの再検討： 平成27年度に実習内容を再編成し、平成28年度では、改変した内容の基礎実習・臨床実習を行う。基礎実習では従来の実習内容（学生同士の相互実習・平成27年度に改良した口腔機能管理模型を使用した治療計画の立案とプレゼンテーション・グループディスカッション）を実施する。また、基礎実習後にOSCE形式の実習試験を行い、学生の理解度を評価する。臨床実習は、従来通り診療室や日本大学病院、特別養護老人ホームへの病棟往診の見学を行う。実習・実習試験終了後に学生にアンケート（平成28年度前期：6～7月を対象月とする）複数回答・自由記載可とし、実習講義・実習について学生自身についての質問と実習内容・教員への評価に関する意見を行い、次年度の実習内容の再検討を行う。</p> <p>②. 口腔機能管理模型の改良：平成27年度に口腔機能管理模型を改良したが、平成28年度はその改良模型を視覚教材として使用し、実習後に学生へのアンケート（模型の形状や、この模型を使用して行ってみたい実技実習についてなど）を行い、教員の意見も反映した模型の改良を行う。</p> <p>2. 連携大学への学生の派遣（特色ある医療支援私学教育プログラム・連携大学間交流） 連携大学との交流と異なる環境での医療教育を経験することで、学生により幅広い知識と臨床経験を習得させることを目的として、岡山大学で行われる周術期口腔管理演習に本学第5学年の学生を派遣する。</p> <p>3. ウェブ講義シリーズの卒前教育への導入についての検討</p> <p>4. 開発模型を用いた一般・医療従事者・介護福祉関係者向け教材の作成 これまで要介護高齢者の移乗や口腔ケアについての視覚教材が作成されているが、義歯の取り扱いを含めた口腔ケアの教材はない。そこで、本学で開発した顎歯模型（義歯装着状態の模型）を用いて、有病高齢者や要介護高齢者の口腔ケアと義歯の取り扱い方法を解説したDVDを作成する。また、YouTubeなどの一般動画サイトに掲載し、患者の家族や介護福祉関係者が容易に閲覧できるようにする。</p>			

<p>成果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成27年度の実習後アンケートの結果をもとに教員間にて検討を行い基礎実習の内容を変更した。学生相互実習については、嚙下内視鏡検査の項目について嚙下造影検査の診査・診断を加えた総合的な画像診断実習に変更した。また、学生の意見を反映し、OSCE形式の実習試験内容（問題内容・時間配分等）の修正を行い、さらに実習最終日の試験の解説を行った。口腔機能管理模型実習については、模型の改良だけでなく歯周基本検査内容やより詳細な患者情報などの資料の追加を行った。顎歯模型の設計については、昨年度の歯肉や軟組織の改良については概ね高評価を得たが、義歯のクラスプの強度や齧蝕の程度について改良を求める意見が多かった。また、OSCE形式の実習試験については、試験自体は講義・実習を総合的に理解する上で非常に有意義であったという意見が過半数であった。昨年度学生から指摘が多かった時間配分やインストラクターの配置等についても改善の指摘が減少した。一方、臨床実習については特に大きな修正事項はなく、滞りなく実施することができた。しかし、平成29年度より実習日数・曜日が変更され、さらに具体的な学生評価点を算出し学生に提示することになったことから、レポート課題や教員間での評価基準の再検討を行う必要があると考えられる。 2. 連携大学間相互交流（特色ある医療支援歯学教育プログラム）として、岡山大学における周術期口腔管理演習（平成28年8月28日～9月2日）に本学第5学年の学生1名を派遣した。岡谷大学における実習プログラムを履修し、周術期管理センター術前外来での実習や、外来化学療法室見学、Bio-Clean Roomの見学等本学では経験することができない貴重な実習を履修することができ、学生にとって非常に有意義な演習となった。 3. 当講座で2年以上臨床研修を受けている研究生と大学院生（12名）に講義シリーズ1～3のいずれかを受講してもらい、現行のカリキュラムに追加あるいは分野別に割り振ることが可能かどうかを検討した。受講した医局員のうち半数程度は卒前教育として有意義であると回答したが、半数は医学的な術式等の専門用語など歯科学生にはやや難易度が高いことや、ある程度を受講時間が必要となるため、国家試験を視野にいった内容にしたほうが第5、6学年にとっては受講しやすいのではないかといった意見が聞かれた。今後どの学年にどのように実施することが可能なのかについて、またカリキュラムの変更等が学部として可能であるかどうかを教員間で検討する必要があると考えられた。 4. 「寝たきりになった時の口腔ケア」と題し、開発模型を用いた一般・医療従事者・介護福祉関係者向けの映像コンテンツを制作中である（年度末完成予定）。このコンテンツは、医療法人社団光生会平川病院と本講座監修によるもので、これまで様々な口腔ケアの映像コンテンツが作成されているが、要介護高齢者の口腔内を再現した顎歯模型で義歯の着脱方法まで解説したコンテンツはこれまでにないと思われる。来年度以降にYouTubeなどの一般動画サイトへの投稿を行い、一般市民から医療・介護・福祉職種まで広く視聴できる環境を整備する予定である。
<p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p>	<p>論文・研究発表 阿部仁子，植田耕一郎，日本大学歯学部卒前教育に対する取り組みについて，文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム（健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成）選定事業，健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-平成28年度連携シンポジウム，福岡，2016，</p> <p>知財</p> <p>受賞等</p>

事業費の使途	<p>消耗品 次年度の実習内容の変更に伴い、実習で使用するために顎歯模型、ペンライトを購入した。</p> <p>旅費 第4回歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会（2016/10/24）と課題解決型高度医療人材養成プログラム連携シンポジウム（2016/10/23-24）への参加のため旅費を計上した。</p> <p>その他</p>
--------	--

平成28年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」事業

連携大学名	昭和大学	連携大学事業推進委員	弘中 祥司	事務担当者	松原 友和
-------	------	------------	-------	-------	-------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	弘中 祥司 石川 健太郎 片岡 竜太	教授 講師 教授	歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会委員 歯学教育改革コンソーシアム実習コーディネーター 歯学教育改革コンソーシアム開発・編成担当	<input checked="" type="checkbox"/> ・否
教育プログラム・コース名	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある医療支援歯学教育プログラム チーム医療を目指した歯科医療人養成コース ・特色ある医療支援歯学教育プログラム 健康長寿社会を実現する病院から在宅へ切れ目のない医療を実践できる歯科医療人養成コース 			
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療を目指した歯科医療人養成コース <p>昭和大学では高度選択科目、他大学では自由選択科目とし、第4学年に対して科目名：4学部連携チーム医療Ⅱ（学部連携チーム）学部連携PBL 90分12コマを実施する。 第5学年では科目名：4学部連携チーム医療Ⅲ（学部連携チーム）として、学部連携病棟実習90分20コマについて、昭和大学附属の歯科室を有する病院で臨床実習を行う。</p> <p>昭和大学病院（815床）：総合急性期病院 昭和大学藤が丘病院（584床）：総合急性期病院 昭和大学横浜市北部病院（689床）：総合急性期病院 昭和大学烏山病院（340床）：精神疾患急性期回復期病院 昭和大学江東豊洲病院（300床）：総合急性期病院 ※隣接の昭和大学附属東病院（199床）：急性期・慢性期 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院（206床）：慢性期も利用する。</p> <p>本学臨床実習規定に基づき、2か月間のうち4/5出席でかつ、修了時に課題試験を行い70%以上の正答を得た者を修了とする。臨床実習修了後に高度選択実習として病院歯科外来を利用したクリニカルクラークシップ方式をとり履修を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康長寿社会を実現する病棟から在宅へ切れ目のない医療を実践できる歯科医療人養成コース <p>臨床研修歯科医師を対象とし、広範な一般医学知識をもち、病院の中で多職種と連携しながら、チーム医療を実践し、入院患者の口腔機能管理を行えるようになり、かつ、退院後の患者の生活を、医療、介護などの面から、包括的に考え、退院後の歯科診療、特に在宅・訪問歯科診療の重要性を理解し、地域連携パスに繋ぐことで地域医療に貢献できる歯科医師を輩出する。</p> <p>臨床特論講義は2単位で1単位は全身管理、救急医学、有病者歯科医療学、1単位は栄養、老年歯学、摂食嚥下リハビリテーションとする。</p> <p>臨床研修は昭和大学口腔ケアセンター研修（1週間：連携校は2週間）を以下の施設で行う。</p> <p>昭和大学病院（815床）：総合急性期病院 昭和大学藤が丘病院（584床）：総合急性期病院 昭和大学横浜市北部病院（689床）：総合急性期病院（緩和病棟含む） 昭和大学烏山病院（340床）：精神疾患急性期回復期病院 昭和大学江東豊洲病院（300床）：総合急性期病院 </p>			
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療を目指した歯科医療人養成コース <p>本年度は、本学第4学年の学生に対して、4学部連携チーム医療Ⅱ（学部連携チーム）学部連携PBL 90分12コマを実施し、96名の学生が受講した。多くの学生が終了時のアンケートでチーム医療の重要性を認識していた。また、4学部連携チーム医療Ⅱ（学部連携チーム）では、模擬</p>			

	<p>患者のシナリオを通してチーム医療の中での歯科医師の役割が認識されて、他学部の生徒との信頼関係の構築に重要な実習であった。次年度には、実際に病棟実習を行うため、歯科医師に必要な医科の知識の重要性が再認識されると思われた。</p> <p>第5年次生に対しては、4学部連携チーム医療Ⅲ（学部連携チーム）として、本学附属病院病棟にて90分、20コマの臨床実習を実施した。本年度は連携校のCBT・OSCE合格者を対象に本実習参加への募集を実施し、岩手医科大学より1名の学生の参加があった。その結果、本学学生を合わせ91名の学生が受講した。実習では医学部・薬学部・保健医療学部看護学科、理学療法学科、作業療法学科の混成チームにより、実際に本学附属の医療施設に入院している患者に対して医療面接、診察および評価を行い、入院中から退院後の生活まで一貫した治療・指導計画をチームにて立案した。作業を通じ、多職種連携に必要な知識と多職種の専門領域の理解がより一層深まったものと考えられた。</p> <p>・健康長寿社会を実現する病棟から在宅へ切れ目のない医療を実践できる歯科医療人養成コース 本学の臨床研修歯科医全体74名の中から昭和大学口腔ケアセンターをラウンドした者は93%の69名である（3月18日最終：2月28日現在、63名が修了）。研修終了後に実施したアンケート調査から、「入院患者の口腔のケアの重要性を説明できる」という設問に対し、コースを受講した研修医全員が「少しできる」または「十分にできる」と回答した。また、「周術期口腔機能管理の対象となる患者について概説できる」、「周術期口腔機能管理の流れを説明できる」という設問に対しても、85%以上が「少しできる」または「十分にできる」と回答した。以上より、病棟における口腔ケアセンター研修は臨床研修歯科医師にとって、口腔ケアの知識と技術向上に有効であると考えられた。</p>
<p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p>	<p>論文・研究発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石川健太郎ほか：臨床研修歯科医師に対する口腔ケアセンター研修の有効性に関する検討、第35回日本歯科医学教育学会、平成28年7月1～2日、大阪 <p>知財 なし</p> <p>受賞等 なし</p>
<p>事業費の使途</p>	<p>旅費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第35回日本歯科医学教育学会（大阪）参加3名 ・平成28年度連携シンポジウム（九州大学）参加3名 ・長崎離島プログラム参加2名 <p>印刷費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会ポスター印刷代

平成28年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」事業

連携大学名	兵庫医科大学	連携大学事業推進委員	岸本裕充	事務担当者	井上あかね
-------	--------	------------	------	-------	-------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	岸本 裕充 野口 一馬 長谷川 陽子	主任教授 准教授 講師	歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会委員 歯学教育改革コンソーシアム実習コーディネーター 教育カリキュラム開発・編集担当 実習・e-learning作成担当	可
教育プログラム・コース名	「平時」から「有事」まで、オーラルマネジメント“CREATE”を実践できる医療人養成コース			
事業計画	<p>兵庫医科大学における事業計画は、オーラルマネジメント(OM)の構成要素である“CREATE”を理解し、実践できる歯科医師養成を目指して構成されている。プログラム履修により、歯科医師に必要とされる周術期口腔機能管理を、口腔清掃を中心とした「口腔ケア」だけではなく「オーラルマネジメント」(以下、OM)へと昇華させ、さらに近い将来に発生することが予想されている大規模災害時にもOMを適応しうる歯科医師を養成する。</p> <p>OMとは、広義の口腔清掃(Cleaning)とリハビリ(Rehabilitation)の2つに加え、ブラッシング指導のような教育(Education)、的確な口腔の評価(Assessment)、抜歯や義歯の調整など歯科治療(Treatment)の5つの要素が揃うことが重要であるという概念である。これら5要素を適切に達成できれば、おいしく食べる(Eat)もしくは、楽しむ(Enjoy)ことが可能となり、CleaningからEat/Enjoyまでの頭文字6つを順に並べると“CREATE”で、「食べられる口をCREATE(つくる)」が目標である。「平時」からOMを実践し、患者にとって「有事」といえるがんの治療などの周術期や高齢者が弱者となる災害時などに、多職種との連携によるチーム医療を的確かつ円滑に実践できる医療人を養成する。そのために、平成28年度は、医師、看護師、リハ職、介護職などの多職種との連携について理解を深める目的で、以下を計画した。</p> <p>① 「平時」から「有事」までオーラルマネジメント“CREATE”を実践できる歯科医療人養成コースの開催</p> <p>② 講演会「チーム医療について」の開催(①の一環として開催)</p> <p>③ 鹿児島大学夏季全国歯学生離島実習プログラムへの参加</p> <p>④ 平成28年度連携シンポジウムへの参加</p> <p>⑤ シンポジウム 食べられる口をCREATE ～周術期から在宅医療まで～の開催</p> <p>また、OMを実践するために必要な知識と技術を向上させる目的で書籍と歯科治療のトレーニングに関わる消耗品を購入し、環境の整備に努めた。</p>			
成果	<p>① 8月25, 26日 兵庫医科大学 「平時」から「有事」までオーラルマネジメント“CREATE”を実践できる歯科医療人養成コース 本コースの一環として「災害医療における歯科医師の役割～プライマリケアと歯型照合～」田川歯科医院 田川宣文先生講演：参加者 連携大学である金沢大学、九州大学、鹿児島大学の歯科医師を含む9名</p> <p>② 7月25日 兵庫医科大学 「チーム医療について」聖路加看護大学 集中治療看護学 宇都宮明美先生講演：参加者25名</p> <p>③ 8月30日～9月2日 鹿児島大学 鹿児島大学夏季全国歯学生離島実習プログラム：参加者 本学レジデント1名</p> <p>④ 10月23日, 24日 九州大学 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-平成28年度連携シンポジウム：参加者 教員2名, 研修歯科医1名 研修歯科医による発表を実施</p> <p>⑤ 12月11日 兵庫医科大学 シンポジウム 食べられる口をCREATE ～周術期から在宅医療まで～:</p>			

	<p>参加者 250名(連携大学である岡山大学, 大阪大学の歯科医師を含む. 参加した職種は医師, 歯科医師, 看護師, 歯科衛生士, 薬剤師, リハ職など)</p> <p>本シンポジウム開催に当たり, 学外から以下の講師を招いた.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「リハビリテーション科医, 耳鼻咽喉科医がしている摂食嚥下リハビリテーション領域」 浜松市リハビリテーション病院 えんげと声のセンター 副センター長 金沢 英哲先生 ・「嚥下・栄養・口腔衛生の情報共有ツール「嚥下手帳」の取り組み: はなみずき嚥下栄養実践会の活動を通して」 社会医療法人祐生会 みどりヶ丘病院 リハビリテーション科部長 森脇 美早先生 ・「最期まで口から食べ続ける事ができるために～訪問管理栄養士と多職種連携～」 社会医療法人三宝会 南港病院 田貝 泉先生 ・「退院から在宅生活への多職種との連携について」 丹波市社会福祉協議会 介護支援専門員 細見 裕子先生 <p>これらを通じて, 研修歯科医やレジデントを始め, 他大学の教職員, シンポジウムに参加した他職種と理解を深める機会を持つことができたと考えられる.</p> <p>また, 書籍や歯科治療のトレーニングに関わる消耗品を購入し, それらを利用することでOMを実践するために必要な知識や技術の向上を図ることができたと考えている.</p>
<p>本プロジェクトに関連した業績, 知財, 受賞等</p>	<p>発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年10月23日 九州大学医学部百年講堂中ホール 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-平成28年度連携シンポジウム 「平時」から「有事」まで、オーラルマネジメント“CREATE”を実践できる歯科医療人養成コース 吉田和功, 野口一馬, 長谷川陽子, 岸本裕充 <p>雑誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川邊睦記, 岸本裕充. 有病高齢者のチェアサイドエッセンス (Vol. 16) 悪性腫瘍(周術期のオーラルマネジメント) DENTAL DIAMOND デンタルダイヤモンド社 41(5):258-259:2016 ・川邊睦記, 岸本裕充. 予防抗菌薬の使い方を再考しよう!術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン 歯界展望 医歯薬出版 127(5):830-832:2016 ・岸本裕充. 術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン 日本歯科評論 ヒョーロン・パブリッシャーズ 76(6):14-15:2016 ・岸本裕充, 小島藍. 術前からの口腔ケア・オーラルマネジメントはとても重要. 継続看護を担う外来看護 在宅で、治療しながら生活する患者の支援を2017春号 日総研 22(1):69-76:2017 ・岸本裕充. 高齢者肺炎への対応 高齢者肺炎の予防・治療のためのオーラルマネジメント 口腔衛生だけでなく、咀嚼・嚥下機能を高める Medicina 医学書院 54(1):102-105:2017 <p>書籍</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岸本裕充. 唾液腺炎, 唾液分泌障害. 言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科学 第2版 医学書院 175-177:2016 ・岸本裕充. 多職種連携における歯科衛生士の役割. 歯科衛生士のための口腔機能管理マニュアル 医歯薬出版 162-165:2016 ・岸本裕充. 認知症患者の口腔ケアのポイントは? 神経内科Clinical Questions & Pearls 中外医学社 303-308:2016 ・岸本裕充. 終末期の口腔ケア・オーラルマネジメント 口腔ケアだけでなく、的確な評価, 歯科治療も重要. 緩和医療・終末期ケア 中山書店 217-221:2017 ・岸本裕充. 口腔乾燥症. 口の中がわかる ビジュアル 歯科口腔科学読本 クインテッセンス出版 150-151:2017 ・岸本裕充. 舌痛症. 口の中がわかる ビジュアル 歯科口腔科学読本 クインテッセンス出版 164-165:2017 ・岸本裕充. 歯科疾患が原因・誘因とされる全身疾患. 口の中がわかる ビジュアル 歯科口腔科学読本 クインテッセンス出版 170-171:2017

<p>事業費の使途</p>	<p>消耗品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書籍の購入 (顎関節症, 頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖学アトラス, 最新エンドのグローバルスタンダード, 絶対知りたい義歯のこと, 診療室からはじめる口腔機能へのアプローチ, 歯科衛生士のための21世紀のペリオドントロジーダイジェスト, イラストでみる口腔外科手術 第4巻, 歯周病を科学する) ・歯科治療のトレーニングに関わる物品の購入 (シンプルマネキンⅢ, ヘッドレストマウントSPMⅢ, 頬粘膜ボックス フルカバーSPMⅢ, 切削練習用模型D16FE-500A, 模型歯A20A-500(以上NISSIN), ツインパワータービン4H (モリタ)) <p>旅費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島大学 夏季全国歯学生離島実習プログラム 参加 1名 ・九州大学 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携 教育体制の構築-平成28年度連携シンポジウム 発表・参加 3名 <p>謝金・交通費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外より招いた講師(上記①, ②, ⑤)への謝金・交通費に使用した. <p>印刷代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム開催に伴い, シンポジウム開催通知のチラシ・ポスター作成に使用した.
---------------	--

